

<p>事業の実績</p>	<p>1. 学生団体福島大学災害ボランティアセンター学生とのワークショップを開催</p> <p>2月16日午後、本学ボランティア学生と福島大学学生（斉藤亮太さん・坂本奨さん・阿部弘輝さん）とワークショップを開催した。本学側はスマイリア・子どもの遊び場・おひさまカフェの活動報告、福島大学災害ボランティアセンターの活動報告をおこなう。その後、懇親会を開催。学生間の交流を深める。</p> <p>2. 熊本地震被災地でのボランティア活動への参加</p> <p>実際に本学学生が活動しているボランティアに、福島大学学生にも参加してもらい、意見交換をおこなう。2月17日は、益城町テクノ仮設団地にて「おひさまカフェ」の活動に終日参加。18日はお昼過ぎまで木山仮設団地にて「子どもの遊び場」に参加、その後、テクノ仮設団地に移動して、再度「おひさまカフェ」に立ち寄った。</p>
<p>具体的な成果</p>	<p>1. 活動の継続について学ぶ機会を得た</p> <p>福島大学災害ボランティアセンターは、発災後7年近くが経過する中、地道な活動を継続しておこなっている。そうした取り組みのノウハウについて、実際に活動している学生から直接話を聞く機会に恵まれた。この交流に刺激され、3年生にボランティア活動を盛り上げていこうという機運が生まれた。</p> <p>2. 今後の変化について学ぶ機会となった</p> <p>発災から時間が経過している福島での活動を学ぶことで、今後熊本で起こりうる課題について学ぶことができた。こうしたことは、本学学生の活動について示唆を与えてくれるものとなった。また、ニーズの変化に対応した取り組みについて、ボランティアセンターが中心となって企画しようとするなどの動きに繋がった。</p> <p>3. 福島大学学生からの率直なフィードバック</p> <p>今回招聘した3名の学生（斉藤亮太さん・坂本奨さん・阿部弘輝さん）に依頼し、彼らから見た本学学生の取り組みについて、レポートを書いてもらった。そこには、福島で活動しているからこそ見えてくる貴重な意見が多数書かれていた（別紙参照）。こうした貴重な意見を本学学生の今後の活動に活かせるよう、フィードバックをおこなった。</p>